

# ひまわり

福岡でいつまでも  
健やかに暮らすということ。

今から考えておく  
『医療』や『介護』のこと。




福岡で楽しく過ごすために必要な情報をお届けします。

知っておくべき『福岡の介護情報』

必ず役立つ『福岡の医療情報』…ほか

# 2

A man in a workshop is shown in profile, focused on adjusting a vintage vacuum tube radio. The radio is a dark wood cabinet with a prominent silver handle. The background is filled with various tools and equipment, suggesting a repair shop or a collector's workspace. The lighting is warm and focused on the man and the radio.

# いまこそ、古き良き あの時代へ帰ろう。

真空管ラジオから流れるジャズのリズムや  
モノクロTVに映る当時の日常に触れると  
遠い昔に想いを馳せずにはいられない。  
「道具は使えてこそ道具」  
活きた古物の宝山の主はそう語り  
今日も「時代の遺産」に命を吹き込む。

写真：佐藤智彦 文：編集部

昭和7年頃に世に出たテレビアン  
『山中電機』の4球真空管ラジオ  
『A-47型』を動かすご主人・大  
場敬志さん。体験したことがない  
音なのに、どこか懐かしく、平成の  
NHK放送が昭和初期の放送に聴  
こえたのは取材班だけだろうか…



物を粗末にしない。物は修繕しながら長く使っていくもの。昔から当然のように継がれてきた日本の心。その心がなくなったものはなんなのだろうか。この骨董屋に「歩足を踏み入れると懐かしき時代へタイムトラベルがはじまる。機械いじりがとにかく好きだったんです。最初に夢中になったのはラジオの分解と組み立てだった。時間があれば近所の廃品回収業者からラジオ等をもらっては分解、部屋中が部品だらけだった。分解して、組み立てたら終わっちゃうから、また分解するわけよ。その繰り返し。岩手で育った少年時代、自ずと進路、就職も好きな道を選んでいった。エンジニアとなってバリバリと働いているとき赴任したこの福岡で転機を迎える。「まったく根拠はなかつたんですけど、古い物をいじるのは大好きな道だからね。きつと大丈夫



れる理由がないと出した修理済みの真空管ラジオやモノクロテレビが人気を博す。「本当に自分が好きなものばかりを修繕や検査をちやんとして並べてるからどれも



修理のできる骨董や『Katsu(活)』  
 福岡南区清水2-8-27  
 ☎092-542-9082  
 営業11:00~19:00  
 休木曜 巴あり  
<http://www.retoro-katsu.jp>

レビは映るからテレビなんです。道具は使えてこそ道具。けつして飾りなんかじゃない。昔の機械ついでうのはしつかりいたわつてやればちやんと元気になるつくりをして

いるんですよ。「一点、道具を動かしてはそのよさを語る大場さん。はまるで我が子を自慢するよう。あまりいい表情をするのでこちらの気持ちも朗かになる。「昔の人は懐かしいって、若い人はなんというんだろう。そうそう、カワイイっていうんですよ。面白い時代だね。真空管ラジオや電着とiPodをつなげたり、モノクロテレビとDVDや地デジチューナーをつけてなんていうオーダーも最近多くてね。うれしいやら、大変やら」と屈託ない笑顔で古物と向き合う大場さんは、今日も「時代の遺産」に新たな命を吹き込む。

時代の世間のせいじゃない。きつと物を楽しむ、愛する心の問題なんだろうと思う。たまにはテレビを消して、網戸越しに真空管ラジオの音で昔を懐かしみながら、古き良き物の風情を楽しんでみてはどうだろうか。